

第9期計画施策実施状況（抜粋）

参考資料

基本目標	施策の柱	施策番号	施策名	事業内容	担当課	実施状況の5段階評価	評価にあたり重視した基準	現状と課題（具体的な事業があれば記載してください）	今後の展開	今後の方向性（令和9年度以降）	事業実績の推移			
											項目	R6	R7	R8（見込）
1 健康づくりと介護予防の推進	1-1	(4)	食育ボランティアの活動支援	・食生活等の事業や食育の推進を図ることによって、高齢者等の健康づくり等を支援します。	健康推進課	4:ある程度実施できた	1. 数値目標等の達成状況	健康づくり計画の取り組み推進として、市と共同で、市民を対象とした野菜を使ったおやつ教室の開催、健康教育を行っている。	4. 縮小	活動メンバーの減少により事業内容を見直し、健康づくり計画の取り組み推進としての活動を継続。	健康教育（おやつ教室、親子料理教室、広報等）（回）	14	10	7
	1-2	(1) ①	訪問型サービス	・従来の介護予防訪問介護に相当するサービスや、住民主体による生活援助サービス等も促し、高齢者の在宅生活を支える事業を実施します。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2. 数値目標達成状況以外（事業の必要性等）	介護予防訪問介護に相当するサービス「訪問従来型サービス」、訪問従来型の基準を一部緩和した「訪問基準緩和型サービス（訪問型サービスA）」についてはサービスを提供する事業所数は順調に増加しており、現在は適正であると判断される。住民主体による支援については、実施できる団体等の調整が難しいため、実施団体は1団体のみとなっている。 住民主体による支援を立上げようとしている団体があるため、調整している。	2. 拡充	住民主体による支援について、地域住民代表等との調整を必要に応じて行っていく。				
	1-2	(2) ②	介護予防普及啓発事業	・介護予防の知識について、市広報紙や市公式ウェブサイト等、様々な媒体や機会を活用し、効果的な普及啓発に努めることで、市民の介護予防に対する意識醸成を図ります。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	1. 数値目標等の達成状況	65歳以上高齢者を対象に介護予防教室としてはつらつクラブを、市内6か所の会場で、月1回開催している。 運動の習慣化ができるように啓発に努め、身近な場所でも運動ができる場を創設する必要もある。	2. 拡充	運動の継続ができるように、啓発をおこない、専門職による対面方式だけにとらわれず、オンライン方式や住民主体による運動ができる場を広げていく。	はつらつクラブ（人）	1,199	1,310	810
	1-3	(1)	総合事業への参画促進	・介護予防や生活支援を行うことができる事業者や団体を増やすため、各種連絡会や説明会の場において、総合事業の内容について周知していきます。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2. 数値目標達成状況以外（事業の必要性等）	事業者の参画が可能である総合事業における従来型・基準緩和型については、ある程度十分であると考えているが、地域団体等の参画が可能である住民主体による支援（訪問型サービスB）については今後、団体数を増やしていくことが必要であると考えられる。	2. 拡充	引き続き、住民主体による支援について、地域住民代表等との調整を順次行っていく。				
2 認知症施策の推進強化	2-3	(2)	認知症サポーター養成講座の拡充	・認知症サポーター養成講座を定期的に開催することで、認知症に関する正しい知識を普及し、認知症高齢者とその家族への支援、認知症高齢者を地域で支える仕組みづくりを進め、認知症サポーターの普及に取り組みます。	高齢福祉課	5:十分できた	1. 数値目標等の達成状況	市広報紙等で受講者を募集するだけでなく、出前講座として地域サロン等に出向いて養成講座を開催することで、認知症の理解を広めることができる。また、中学生を対象に養成講座を開催することで、全ての世代で温かく見守れる地域となるように努めている。 受講者の年齢に偏りがあるので、現役世代の受講者数を増やしていく必要がある。	2. 拡充	現役世代への普及・啓発と、認知症サポーターが様々な場面で活躍してもらえるように環境を整備していく。	認知症サポーター養成人数（人）	786	1,014	1,000
	2-3	(3)	認知症サポーターの活動促進（チームオレンジ）	・認知症高齢者にやさしい地域づくりを進めるため、認知症サポーターをはじめとした支え合いの担い手と認知症の人やその家族の支援ニーズをつなげる仕組みであるチームオレンジを立ち上げ、「共生」の地域づくりを推進します。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2. 数値目標達成状況以外（事業の必要性等）	令和6年度、7年度にステップアップ研修を開催し、35名の参加及び12か所の認知症カフェがチームオレンジを設置した。	2. 拡充	チームオレンジとしての活動を支援していく。	認知症の方の地域見守り協力者学習会（回）	1	1	1
											ステップアップ講座参加者数（人）	20	15	100
											チームオレンジ数（チーム）	8	12	10
	2-3	(4)	認知症高齢者見守り事業	・地域における認知症高齢者の見守り体制の構築を目的とした、認知症に関する広報・啓発活動、認知症高齢者に関する知識のあるボランティア等による見守り活動の支援を行います。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2. 数値目標達成状況以外（事業の必要性等）	認知症サポーター養成講座受講者のなかで、認知症の方を地域で見守っていたただけの方に協力者として登録してもらっている。協力者には、市が募集してサポーター養成講座で行う寸劇に参加してもらったり、認知症カフェでボランティアとして活動してもらっている。	2. 拡充	協力者を中心に、歩いていける所に誰もが集える居場所を作ることと、通うことが難しい方に対しては、訪問によって見守りを行う。				
3 地域共生社会の実現に向けた	3-1	(3)	在宅医療・介護連携の仕組みづくり	・医療・介護の専門職同士の顔の見える関係づくりを促すための研修等の機会を提供します。 ・また、保健・医療・福祉サービスの地域連携ネットワークを推進するため、ICTを活用した情報共有システム（つながるまい“あま”電子@連絡帳）を運用し、サービス利用に係る全ての職種がチームとなって医療・介護について情報共有できる仕組みを設けています。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	1. 数値目標等の達成状況	ICT（つながるまい”あま”電子@連絡帳）を利用する事業所は着実に増えてきており、各事業所間の連絡ツールとして利用も進んでいる。 ICTを活用し、医療と介護の連携を行った。	2. 拡充	引き続き登録事業所及び登録者（対象者）の拡充を行い、医療と介護の連携がスムーズになるように支援を行っていく。	つながるまい“あま”電子@連絡帳登録事業所（事業所）	110	129	110
	3-3	(2)	高齢者見守りネットワークの拡大	・市内金融機関や新聞販売店、各種ライフライン、配食・宅配事業所、生鮮食料品店、薬局・ドラッグストア等、「あま市高齢者地域見守り協力に関する協定」を結んだ民間事業所と連携し、高齢者を見守るネットワークを形成します。	高齢福祉課	5:十分できた	2. 数値目標達成状況以外（事業の必要性等）	高齢者見守り協定により、地域の事業者も高齢者の見守りに協力しており、地域全体で、認知症も含めた高齢者に優しいまち、高齢者になっても住み続けたいまちづくりを推進している。協定事業所からの通報により倒れていた方が発見されるなど、見守りネットワークが機能している。	2. 拡充	引き続き、民間企業とのネットワークの機能強化と拡大を図り、高齢者が安心して暮らせるように見守り協力事業所を増やしていく。				
	3-3	(3)	身近な地域における居場所づくり	・身近な地域における助け合い（互助）を促すため、地域の方々気軽に集まれる拠点となるつどいの場の提供に向けた検討を行います。 ・認知症カフェ（ふれあいカフェ）やサロン等、既存の事業との連携や世代間交流を前提とした事業内容を検討します。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	1. 数値目標等の達成状況	ふれあいカフェについては、様々な主体による開催を目指し、人材育成や開催支援等を認知症地域支援推進員が中心に進めている。そのため、カフェの数も少しずつ増えている。 サロンにおいては多世代交流のできるサロンが誕生するなど内容の多様化が進んでいる。	2. 拡充	地域において多世代交流できるような居場所ができるよう推進する。	認知症カフェ開催数（箇所）	14	14	16
4 安全・安心な生活のための支援	4-1	(7)	安心カード事業	・外出時に事故や災害等にあった時に、携帯していると便利な緊急連絡先や既往歴等の情報を記載できる名刺サイズのカードを配付することにより、高齢者の安全と安心の確保を図ります。	高齢福祉課	4:ある程度実施できた	2. 数値目標達成状況以外（事業の必要性等）	地域包括支援センターの窓口に安心カードを置き、窓口に来られる方が自由に持ち帰っていたように整えている。	2. 拡充	認知症カフェや介護者のつどいで家族に説明する機会を設けたり、高齢者台帳の調査時に民生委員から配布していただくなど、市民に安心カードの存在と事業の内容について周知していく。				
	4-1	(8)	救急医療情報キット事業	・健康上不安のある人に対し、かかりつけ医療機関、持病その他救急時に必要な情報を保管する救急医療情報キットを配布することにより、高齢者の安全と安心の確保を図ります。	健康推進課	4:ある程度実施できた	1. 数値目標等の達成状況	必要な方などでもその場で配布している。民生委員・児童委員協議会等で救急医療情報キットの周知・啓発を図ってきたが、新規作成は行っていないため事業廃止へ。	5. 廃止		キット配布数（セット）	336	193	100
	4-1	(9)	配食サービス事業（社会福祉協議会）	・おおむね65歳以上のひとり暮らし高齢者等で自ら調理することが困難な方を対象に、栄養に配慮した弁当（有料）を昼食時（火・木・土曜日のうち2日）に配達し、併せて安否確認を行います。	社会福祉協議会	4:ある程度実施できた	1. 数値目標等の達成状況	令和3年度から火・木・土曜日のうち週3回までの利用でしたが、令和4年度から月・火・水・木・金・土曜日のうち週6回までの利用に変更した。 現在、仕様書に対応できる業者が少ない。どの業者も、辞退した主な理由が『人手不足』である。今後も、業者の選定が困難になると見込まれる。	5. 廃止	あま市における見守り協定の一環として、配食・宅配業者への事業移行を行うことで、利用者の選択肢の幅を広げて多様な利用が可能となる。	年間食数（食）	12,388	13,336	14,559
	4-4	(3)	防災に対する意識啓発	・地域サロン等へ出向き、防災に関する知識や対策等の出前講座を行い、住民一人一人の防災意識を高めます。また、防災リーダー養成講座を開催し、防災知識の普及及び地域防災力の強化に努めています。	危機管理課	4:ある程度実施できた	1. 数値目標等の達成状況	防災リーダー養成講座 ・自主防災活動の指導や住民へのアドバイスなど地域の防災活動に取り組む防災リーダーを養成する講座を5月上旬から6月下旬に全3日の日程で開講する。 ・過去に防災リーダー養成講座を修了した人に対してレベルアップ講座を12月上旬に全2日の日程で開講する。 ・令和7年度からレベルアップ講座を廃止し、防災リーダー養成講座を全5日の日程に拡充した。	4. 縮小	開催日数や講座内容の見直しを行いながら、事業を実施していく。	防災リーダー養成講座修了者（人）	1,100	1,170	1,232
の加6 支と援生高き が者のい の活動会 へ参	6-1	(4)	ふれあい・いきいきサロン推進事業（社会福祉協議会）	・身近なところを拠点として、高齢者等の生きがいや社会参加、健康づくり、閉じこもり防止を目的に、参加者とボランティアと一緒に企画・運営しながら茶話会やレクリエーション・小物づくり等の活動を定期的に開催し、楽しく気軽に仲間づくりを行うサロン活動を支援します。	社会福祉協議会	3:あまり十分でなかった	1. 数値目標等の達成状況	コロナ禍で開催を断念するサロンも多数あり、サロンの数も減少傾向にある。今後、まだサロンが開設されていない地域や、サロンが無くなってしまった地域に対して、サロンの開設を図ることが課題となる。	2. 拡充	各地区に1つ出来ると、今まで参加できなかった高齢者も外へ出る機会が増える。	サロン数（箇所）	28	29	28